【令和２年度】

「マイボトル及びマイバッグの利用状況」に関するアンケート　リサーチプラン

**１　調査の背景と目的**

2019年に開催されたG20大阪サミットでは、2050年までに海洋プラスチックごみによる新たな汚染をゼロにする「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」が共有された。

府においては、2019年１月に「おおさかプラスチックごみゼロ宣言」を大阪市と共同で実施し、プラスチックごみの削減を推進する必要がある。

一方、新型コロナウイルス感染症の拡大や、本年７月に開始されたレジ袋有料化などにより、マイボトルやマイバッグに対する府民の意識やニーズは大きく変化している。

今後、府民ニーズを把握した上で、マイボトルやマイバッグの利用を促進する効果的な施策を実施し、使い捨てプラスチックの３R（※）をさらに推進するとともに、今年度策定予定の「大阪府循環型社会推進計画」の基礎資料とするため、本調査を実施する。

（※）３Ｒ（スリーアール）

Reduce（リデュース、ごみの発生抑制）、Reuse（リユース、再使用）、Recycle（リサイクル、ごみの再生利用）の優先順位で資源の有効利用に努めるのがよいという、環境配慮に関する考え方

**２　調査（検証）項目**

（１）マイボトルに関する意識・行動

仮説１　海洋プラスチックごみ問題に対する意識が高い人は、そうでない人に比べ、マイボトルを使っている割合が高い。

仮説２　マイボトルに飲料を補充する施設やサービスが身近にある人は、そうでない人に比べ、マイボトルを使っている割合が高い。

（２）マイバッグに関する意識・行動

仮説３　スーパーでマイバッグを使う人でも、スーパー以外では使わない人が多い。

仮説４　スーパー以外では、コンビニでマイバッグを使う人が最も多い。

仮説５　30～50代の男性（会社員）は、それ以外の人に比べ、コンビニでマイバッグを使わない人が多い。

仮説６　マイバッグを所有している人でも、ごみ袋がほしいためレジ袋を受け取る場合がある。

**３　調査対象**

大阪府在住の18～90歳までの男女、

各世代（18～29歳、30代、40代、50代、60代以上）200サンプル（男女均等割）、

計1,000サンプル

**４　質問項目**

■予備質問　１問

（SC１は、他の調査で使用）

SC２　職業

■本質問　１４問

**≪海洋プラスチックごみ問題への認知度・意識≫**

Q１　「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」（内容）の認知度（尺度・SA）

Q２　海のプラスチックごみの原因に関する府民の意識（尺度・SA）

Q３　プラスチックごみのさらなる削減に対する府民の意識（尺度・SA）

**≪マイボトルの利用に関する意識≫**

Q４　マイボトルを使っているか（SA）

Q５　マイボトルに飲料を補充できる施設・サービスが外出先の近くにあるか（SA）

Q６　マイボトルに飲料を補充できる施設・サービスに関する情報を見たことがあるか（SA）

Q７　【マイボトルを使っている人】外出先で、マイボトルに飲料を補充したことがあるか（SA）

Q８　【補充したことがある人】飲料を補充するとき重要視することは何か（MA）

Q９　【補充したことがない人】その理由（MA）

**≪マイバッグの利用に関する意識≫**

Q10　マイバッグを所有しているか（SA）

Q11　【所有している人】次の店でマイバッグを使うか（表組・SA）

①スーパー（買い物目的）

②テイクアウトができる店（ファーストフード店・弁当屋等）

③コンビニ

④ドラッグストア・100円ショップ

⑤百貨店

Q12　【Q11①～⑤使わない人】その理由（MA）

Q13　直近の１週間でレジ袋を受け取ったか（SA）

Q14　【受け取った人】その理由（MA）

**５　検証方法**

（１）マイボトルに関する意識・行動

仮説１　Q１×Q４、Q２×Q４、Q３×Q４

仮説２　Q５×Q４、Q６×Q４

（２）マイバッグに関する意識・行動

仮説３　Q11①×Q11②～⑤

仮説４　Q11③（コンビニ）×Q11②④⑤　※人数比較

仮説５　性別×年齢×SC２×Q11③（コンビニ）

仮説６　Q10×Q14